新刊書出版

『技術士の倫理』

共著：田中秀和 教授
（情報学部 情報システム学科 コンピュータサイエンス専攻）
（社）日本技術士会　倫理委員会

本書は、技術士や技術士を目指す人が「技術士の倫理」についての研究に取り組む際の手軽な入門書テキストとして、社団法人 日本技術士会倫理委員会が企画・編集したものです。現代の高度技術社会における技術者の職業倫理や、技術士法における技術士等の義務、近年において発生した技術者の倫理問題の事例等を取り扱ったテキストで、第一版は2002年に発行されました。しかし、これまで発行してきたものは発行後時日も経過したこと、またその間、技術者倫理に関する研究も深まってきたこと等を考え、今回は改訂版として全面的な改訂を行い、出版となりました。

発行所：社団法人日本技術士会 CPD実行委員会
発行日：2010年3月
定　価：600円（税込）

元気印の卒業生 ⑱

村木翔伍さん（2010年 情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻卒業）
COP10公式うちわのデザインに採用

「COP（Conference of the Parties）」とは、国際条約を結んだ国が集まる会議（締約国会議）のこと。多様な生き物や生息環境を守り、その恵みを将来にわたって利用するために結ばれた生物多様性条約では、10回目の締約国会議「COP10」が2010年10月、愛知・名古屋で開催される。

その国際会議のうちわデザインに、村木さんの動物デッサンが採用された。デザイン完成の経緯を彼に聞いた。「高木基充研究室内の作品制作で何を題材にするか、いろいろ悩んでいた4年のとき、僕のスケッチブックをパラパラとめくった高木教授が動物のスケッチをみて『もう少し手を加えて何種類か動物を描いてきなさい』と言いました。どんなふうに描けばいいのか、試行錯誤の毎日。何度も書き直し、高木教授に提出してはダメ出しダメ出し…。しかしそのおかげで、納得のいく動物の絵が描きあがりました。ちょうどその時期に『COP10』があり、展開できないかと高木教授がさまざまなところにプレゼンしてくださった結果、今回の採用にいたりました」と笑顔。

「僕は『トラ』がお気に入りです。表情が良いでしょう。今思うとあのとき、高木教授がスケッチブックを見ていなかったら、この充実感は得られなかった。常に見守ってくれていた高木教授にはとても感謝しています」と当時を懐かしむ村木さんは、最後に「この作品が世に出ることによって、絶滅危惧の動物たちのことに関心や興味を持っていただければ幸いです」と期待を込めて語った。

人　事

●退職　【法人本部・大学】

＜教育職員＞（H22.3.31）
山田忠比古 工学部 電気電子工学科 教授
五島利兵衛 工学部 建築学科 教授
酒造　敏廣 工学部 都市環境デザイン学科 教授
岩間　尚文 情報学部 情報システム学科 教授
三品　善昭 情報学部 情報システム学科 教授
川戸　和英 情報学部 情報デザイン学科 教授
早川　謙二 情報学部 情報システム学科 准教授
茂吉　雅典 情報学部 情報デザイン学科 講師
太田　福男 工学部 建築学科 特任教員
田中　裕巳 教養部 教職教室 特任教員

＜事務職員＞（H22.3.31）
楳田　　浩 大学事務部 教務室 主席部員
野坂　雅英 総務部 総務室 主席部員

＜嘱託職員＞（H22.3.31）
石原　　廣 総務部 総務室
毛利　志保 工学部 建築学科
勝島　真悟 情報学部 情報デザイン学科 兼 情報学部 情報学科

●採用【大　　学】

＜教育職員＞（H22.4.1）
神﨑　隆男 工学部 機械工学科 教授
武藤　　隆 工学部 建築学科准 教授
中島　貴光 工学部 建築学科 講師
柘植　　覚 情報学部 情報システム学科 准教授
不破　勝彦 情報学部 情報システム学科 准教授
並木　浩一 情報学部 情報デザイン学科 教授
横井　健二 情報学部 情報デザイン学科 教授
杉本　幸雄 情報学部 情報デザイン学科 准教授
定國　伸吾 情報学部 情報デザイン学科 講師
竹村　明久 情報学部 情報デザイン学科 講師
久田　晴生 教養部 教職教室 教授
杉浦　正勝 工学部 機械工学科 特任教員
小野　宗憲 工学部 総合機械工学科 特任教員
岩間　三郎 工学部 電気電子工学科 特任教員
山田忠比古 工学部 電気電子工学科 特任教員
五島利兵衛 工学部 建築学科 特任教員
岩間　尚文 情報学部 情報システム学科 特任教員
烏野　壽章 情報学部 情報システム学科 特任教員
早川　謙二 情報学部 情報システム学科 特任教員
三品　善昭 情報学部 情報システム学科 特任教員
川戸　和英 情報学部 情報デザイン学科 特任教員

＜事務職員＞（H22.4.1）
佐藤　修一 大学事務部 教務室 主任部員 特任職員

●昇任【法人本部・大学】

＜教育職員＞（H22.4.1）
尾形　和哉 工学部 総合機械工学科 教授 併任 工学部 ロボティクス学科 教授
小森　和武 工学部 総合機械工学科 教授 併任 工学部 機械工学科 教授
萩原　伸幸 工学部 建築学科 教授
齊藤慎太郎 情報学部 情報デザイン学科 教授 併任 教養部 保健体育教室 教授
光田　　恵 情報学部 情報デザイン学科 教授 併任 工学部 建築学科 教授
二村　俊英 教養部 数学教室 准教授

＜事務職員＞（H22.4.1）
石川　常夫 総務部 総務室長（部長待遇）
児玉　鉄男 大学事務部 教務室長（部長待遇）
水野　伸哉 総務部 人事室長（次長待遇）
小堺　貴夫 法人本部 入試・広報室 主任部員（課長待遇）
肥田　　聡 大学事務部 キャリア支援室 主任部員（課長待遇）

編集後記

新年度がスタートしたこの4月。
どうも、例年と雰囲気が違うように思えた。
それもそのはず。過去最多、新入生たちの“フレッシュ”な表情。この春誕生した、かおりデザイン専攻の学生たちの“華やか”なオーラ。リーグ戦を全勝優勝し、1部昇格も果たした、女子ハンドボール部の彼女たちの“元気”な笑顔。
間違いない。大同大学は輝きを増している。

大同大学 DAIDO UNIVERSITY
DAIDO CAMPUS No.71 2010年6月30日発行（季刊）
編集・発行：大同大学入試・広報室 〒457-8530名古屋市南区滝春町10-3 TEL052-612-6117 FAX052-612-0125
E-mail koho@daido-it.ac.jp URL http://www.daido-it.ac.jp

No.71
2010.6

DAIDO CAMPUS

02 平成22年度入学式　**03** 学生の勇姿　**08** トコトン先生大活躍　**13** 学科・専攻ニュース
14 新任教員紹介　**16** 新刊書出版　元気印の卒業生　人事　編集後記

写真提供：アルバム委員会

大同大学
DAIDO UNIVERSITY

平成22年度 入学式

学部生949人、大学院生48人、委託生2人が大同大学の門をくぐる

大同大学として2回目の入学式を、4月1日（木）、本学石井記念体育館で挙行した。式には、999人もの新入生たちと、たくさんのご父母のみなさま、そして教職員が参加。広い体育館が埋め尽くされた。

澤岡昭学長による「入学許可」の後、新入生代表の櫻庭幸哉君（工学部総合機械工学科機械システム専攻）が力強く宣誓。

そして澤岡学長が告辞。「自分にとって何が好きなのか、何をやりたいのか、本当に何が得意なのかを見つけてください。これが分かり、得意なことを中心にした生活を始めると毎日が楽しくなり、自信がついてくるものです。しかし、自分にとって本当に何が好きなのかを見つけることは簡単ではありません。一生懸命やって、いつまでも飽きがこないこと。それが好きなことなのだと思います。まず考え、そして思うことを存分にやりなさい。一生懸命やっていると、人生は思いもかけない方向に展開するものです。自分の可能性に賭けることです。多くを経験することによって変わってゆく自分に驚くはずです。諸君、待ち遠しいこと、苦しいこと、過ぎてしまえば、時はあっという間に過ぎるものです。本日より、四年間の学部生活、さらに大学院入学の諸君は二年間の研究生活が始まります。これからの学生生活を勉強、研究、スポーツ、部活、友人とのディスカッションなどに思いっきりぶつけて、愉快な青春時代を過ごされることを心より願っています。」と彼ら彼女たちの入学をこころから歓迎した。

澤岡学長の告辞に続き、奥村博司理事長、恒川喜平後援会会長と祝辞を述べられ、最後に学歌を斉唱した。

入学式終了後は、体育館の外で待ち構えていた先輩たちがクラブ紹介と勧誘合戦。今年は学生会が屋台をオープン。新入生たちを歓迎した。

学生の勇姿!

第45回宴祭
翔～舞いあがれ笑いの上笑気流～

今年度は、美流輝移仮装行列が中止ということもあり、5月27日（木）の前夜祭から第45回宴祭がスタート！

5月29日（土）・30日（日）の本祭は、カラッと晴れた大晴天にも恵まれ、昨年同様多くの来場者を集め、大いに盛り上がった。また、30日夜に行われた後夜祭のスペシャルステージには、FLIPと地慕里ジャンクションが登場。会場を湧かせた。

今年のテーマは「翔～舞いあがれ笑いの上笑気流～」。来場者はもちろん、協力してくれた方々、実行委員メンバー等、かかわる全ての人たちが舞い上がるように楽しみ、笑顔になって欲しいとの想いが込められている。きっとみんなの笑顔が天まで舞い上がったに違いない。

春のオープンキャンパス

今年も大学祭と同日（5月29日・30日）、春のオープンキャンパスを開催した。大学説明から始まり、学科・専攻体験ツアーへ。昨年を上回る数の高校生、保護者の方々が参加。一年でもっともカラフルな大同大学を体感していただいた。

大同大学 後援会 第47回定期総会特別対談会
「ぼくはこのように生きてきた －日仏ファッションビジネスを通じて－」
澤岡 昭（大同大学学長）×齋藤 統（神戸芸術工科大学客員教授）

5月30日（日）、本学A棟14階交流室で、後援会　第47回定期総会特別対談会「ぼくはこのように生きてきた－日仏ファッションビジネスを通じて－」が開催された。対談者は、本学　澤岡学長と、日本や海外のファッション産業人材育成を推進し、イッセイミヤケ・ヨーロッパ社社長も務めた齋藤さん。

会は、澤岡学長と斉藤さんの対談に始まり、質疑応答へ。参加者からの質問にも丁寧に答え、終始和やかな雰囲気で進行。1時間にわたる対談会は幕を閉じた。

澤岡学長による「対談企画」は今回でシリーズ第2弾。前回に続き、小冊子を制作する。

▲齋藤さん

▲澤岡学長

学生の勇姿!

大同大学 女子ハンドボール部

リーグ戦初参戦、全勝優勝、そして1部昇格への軌跡。

リーグ戦初参戦で、勝利をつかむ!

4月18日(日)

4月18日(日)、南山大学体育館等で、平成22年度東海学生ハンドボールリーグ春季リーグ戦(女子2部)が開幕。今回が初参戦の本学女子ハンドボール部は、南山大学と対戦し、見事勝利した。

昨年発足時は、部員が集まらずリーグ戦参加を見送ったが、今年は新入生6人が加わり、総勢7人に。しかしハンドボールのフィールドプレイヤーは7人。ぎりぎりのメンバーでむかえた開幕戦。エース飯野典子さん(情報学部 情報デザイン学科 スポーツ情報専攻1年)のケガにより、プレイヤーは6人。いきなりのピンチも、リーグ規定で5人いれば試合は成立するため、棄権せず、参戦。

試合は、序盤南山大学にリードされるも、徐々に落ち着きを取り戻した彼女たち。前半を2点リードで折り返した。後半はDFがよく踏ん張り、チーム創部初戦を勝利。

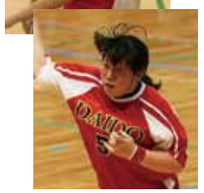
24歳以下(U-24)の女子日本代表のヘッドコーチも務める齊藤慎太郎監督(情報学部 情報デザイン学科 スポーツ情報専攻 教授)は「目標は2部優勝。入れ替え戦に勝ち、1年で1部に昇格したい」と部員とともに、明確な目標を掲げている。

試合前から、本学女子ハンドボール部のデビューは、讀賣新聞や中日スポーツに掲載されるなど、マスメディアも注目。そんななか、彼女たちは堂々とプレーした。学内外より、今後の活躍が期待されている。

【4月18日の試合結果】
大同大学 21 - 12 南山大学

全勝優勝をかけ、5.16本学体育館で決戦

5月5日(水)



4月18日(日)、平成22年度東海学生ハンドボールリーグ春季リーグ戦(女子2部)が開幕。本学女子ハンドボール部が初参戦した。

2年6人、1年1人、総勢7人の本学女子ハンドボール部。初戦は本来のフィールドプレイヤー7人に1人足りない6人のメンバーで挑み、見事勝利した。

その後、7人全員がそろったが、メンバー入れ替えのできない非常に厳しい状況は続いた。しかし、キャプテン小林智美さん(情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻2年)が引っ張るチームは、初戦の勢いそのままに勝ち続け、現在6勝0敗で1位。

5月16日(日)、本学石井記念体育館での最終戦、全勝優勝に挑む。がんばれ、女子ハンドボール部!!

【試合結果】
5月1日 大同大学 35 - 12 岐阜聖徳大学
5月2日 大同大学 37 - 15 愛知大学
5月3日 大同大学 21 - 15 名古屋市立大学
5月4日 大同大学 29 - 08 常葉学園大学
5月5日 大同大学 35 - 04 日本福祉大学

おめでとう、全勝優勝!

5月16日(日)

平成22年度東海学生ハンドボールリーグ春季リーグ戦(女子2部)でデビューした本学女子ハンドボール部。1・2年生のみ、総勢7人で挑んだ全7戦。見事、本学石井記念体育館で全勝を果たし、優勝を勝ち取りました。おめでとう!なお、優秀選手に小林智美さんが選ばれた。

たくさんのご父兄、地域の方々、学園関係者の目の前で輝きをみせた彼女たち。次は、5月23日(日)12時40分、名古屋市露橋スポーツセンターで開かれる1部2部の入れ替え戦で再び輝く。がんばれ!

【試合結果】7勝0敗 全勝優勝
5月16日 大同大学 39 - 05 皇學館大學

おめでとう、1部昇格!

5月23日(日)

平成22年度東海学生ハンドボールリーグ春季リーグ戦(女子2部)でデビューした本学女子ハンドボール部。1・2年生のみ、総勢7人で挑んだ全7戦。見事、リーグ戦の最終戦、本学石井記念体育館で全勝を果たし、優勝を勝ち取った。5月23日(日)、名古屋市露橋スポーツセンターで開かれた、1部2部の入れ替え戦。

ご父母の皆様、桜花学園高校の生徒たち(飯野さんの出身高校)、本学男子ハンドボール部、卒業生、教職員らの大声援もあって、選手たちはハツラツとプレー。見事、目標としていた1部昇格を果たした。

今後もさらに高い目標に向けて努力精進していきたいと話す彼女たちの活躍に注目だ。

【1部2部入れ替え戦】 1部昇格
5月23日 大同大学 36 - 16 日本ウェルネス専門学校

学生の勇姿!

吹奏楽団

柴田学区で交通安全パレードに参加!

5月16日(日)、柴田学区からの依頼で、本学吹奏楽団が交通安全パレードに参加した。

パレードは、柴田小学校をスタートし、大同病院、大同町駅、本学を通り学区を一周して柴田小学校へ戻ってくるという道のり。

およそ200人がパレードに参加し、交通安全を呼びかけ事故件数が少ない柴田学区に一役買った。

大同大学吹奏楽団は、地域の方に喜んでもらえるよう、柴田商店街が8月に開催する七夕まつりでも演奏する。

ダンス部

「第36回 旧七帝国大学学生舞踏選手権大会」で活躍!

毎度、本学ダンスの活動に対しまして、日頃から何かとご配慮頂きましてありがとうございます。本学ダンス部の部員は現在、1年生3名、2年生1名(全員男性)で活動しています。

先日行われました「第36回旧七帝国大学学生舞踏選手権大会」の結果をご報告します。

出場大学は、旧七帝大すなわち北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学の競技ダンス部のメンバーです。本学ダンス部は、名古屋大学舞踏研究会の一員として参加しました。競われた種目は、学生競技ダンスとして日ごろ行っている8種目(ワルツ、タンゴ、スロー・フォックス・トロット、クイック・ステップ、ルンバ、サンバ、パソドブレ、チャチャチャ)です。

今後とも応援よろしくお願いします。

顧問:三品喜昭
(情報学部 情報システム学科 情報ネットワーク専攻 特任教授)

開催日時:3月14日
開催場所:大同大学体育館
新人戦の部(1年生のみ出場)
松村 光君(工学部 ロボティクス学科1年※)
ルンバの部5位
池富勇輝君(工学部 電気電子工学科1年※)
総合8位
団体戦の部(全学生が出場)
岩田宗也君(工学部 ロボティクス学科2年※)
フォックス・トロットの部12位(上級生を除けば5位)
チャチャチャの部で12位(上級生を除けば7位)
※出場当時の学年

環境デーなごや 2010春の地域行事 クリーンキャンペーンに参加

『環境デーなごや2010 春の地域行事「市民・事業者エコキャンペーン」』の一環として毎年実施されている「クリーンキャンペーン」が6月12日(土)、本学で行われた。

今年も200人を超える学生・教職員が参加。最高気温30度を越す晴天の中、およそ2時間、大学周辺の清掃活動を行った。

学生の勇姿!

西堀賢司研究室・尾形和哉研究室・橋口宏衛研究室
（工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻）

「ロボカップジャパンオープン2010大阪」で3位入賞！

5月2日（日）～4日（火）に大阪工業大学で開催された「ロボカップジャパンオープン2010大阪」に、本学のロボカップチーム（西堀研究室・尾形研究室・橋口研究室）が出場した。

ロボカップとは、2050年までにヒューマノイドロボットが人間のワールドカップサッカー優勝チームに勝利することを目指して、ロボット工学や人工知能の研究を推進することから始まった国際プロジェクト。今回の大会には、国内外から225チーム772人が参加した。

本学のロボカップチームは、人間のサッカーの試合と同じように、自分で考えて動く自律移動型ロボットを使った競技形式で行われる「ロボカップサッカー」に出場。縦横50cm未満のロボット5台でチームを構成し、18m×12mのフィールドで試合をする「中型ロボットリーグ」と、自律型2足歩行ロボットによる試合で人間のサッカーにより近い競技となる「ヒューマノイドリーグ」の2リーグに登場した。

「中型ロボットリーグ」のロボットには、フィールド上を駆けめぐるための移動機構やボールを蹴るためのキック機構を持ち、ボールやゴール、味方や相手を判断するためのセンサを搭載。今回は、色なしゴールに対応するよう新たに改造したロボット5台で出場し、見事3位入賞を果たした。また、「ヒューマノイドリーグ」には、ステレオカメラと画像処理を装備した小型歩行ロボット3台で出場。予選を見事通過し、準決勝まで駒を進めたが敗退。しかし、大健闘の4位入賞という結果を残した。

今大会で、全国レベルの力を発揮した本学ロボカップチーム。今後ますますの活躍が期待される。

表　彰　状

サッカー中型
3 位

チーム名　DU-ST
大阪大学

メンバー
宮井 佑輔　西堀 賢司　尾形 和哉
高井 慶明　小川 元由　高橋 佑騎
久東 勝弘　山田 光輝

貴チームはロボカップジャパンオープン2010大阪において
日頃の成果を発揮され 顕著の成績を納められました
その栄誉を讃え これを表彰します

ロボカップジャパンオープン2010大阪実行委員会
会長　松原 仁

有賀聡紀君・中川慎也君（工学部 ロボティクス学科2年）

「ロボファイト11」SRC（小型機）部門で優勝&3位入賞！

ロボット研究部は、5月22日（土）に大阪産業創造館で開催された2足歩行ロボット全国大会の「ロボファイト 11」に参加し、有賀君が見事SRC（小型機）部門の1.8kg 以下級で優勝した。

有賀君のロボット“ふぁんた”は、21台のロボットによるトーナメント試合で勝ち残り、見事優勝！準決勝で有賀君に敗れた中川君のロボット「さなーる・ミ☆」も3位入賞を果たした。

今回の優勝は、ロボファイト8（2008年11月）優勝の大竹章司君（工学部 ロボティクス学科4年）、ロボファイト9（2009年5月）優勝（2階級）の松原広司君（工学部 ロボティクス学科4年）と小出真澄君（工学部 ロボティクス学科4年）に続く快挙となった。

クラブ委員会主催

「第15回 クラブ対抗ボウリング大会」開催

6月12日（土）、名古屋グランドボウルにて「第15回 クラブ対抗ボウリング大会」が開催された。

午前中に行われたクリーンキャンペーンの疲れも見せず、30チーム総勢90人が参加。バスに乗り込み、会場へ。大会は、関谷昌久学生部長の始球式からスタート!200を越すハイスコアも記録し、終始笑顔の溢れる大会となった。

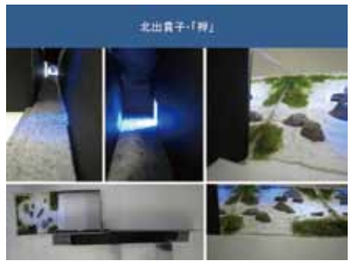
磯谷賢児君・北出貴子さん・佐久大祐君・佐竹治紀君（工学部 建築学科 インテリアデザイン専攻3年）
加藤和雄客員教授が会長を務めるMESH主催

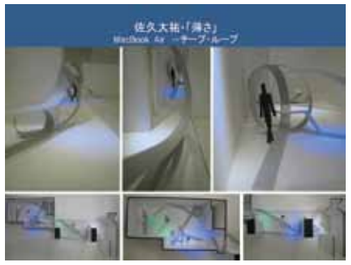
「第75回MESH環境デザインセミナー」で発表！

6月12日（土）名古屋工業大学で、加藤客員教授が会長を務めるMESH（環境提案協会・中部）主催の「第75回MESH環境デザインセミナー」が開催された。

このセミナーは、主にインテリア・建築・環境・プロダクトなどを学ぶ学生と若いデザイナーを対象として実施。今回は2部構成となっており、1部はインテリアデザイナーの富樫克彦氏による「インテリア・建築そして街へ」の講演、2部は「学生プレゼンテーション」が行われた。

学生プレゼンテーションには、本学 工学部 建築学科 インテリアデザイン専攻より3年生4人が参加。3年前期の設計課題である『Mac テーマ・ディスプレイデザイン』を、磯谷君「破壊×自然再生力」、北出さん「禅」、佐久君「薄さ」、佐竹君「遊空間」と題し、参加者およそ100人の前でプレゼンした。





やるじゃんトピックス!!

タイ国からTNI学生12人が本学に短期留学

創造製作センターおよび情報システム学科で実習講座を体験

本学と学術交流協定を結んでいるThai-Nichi Institute of Technology（泰日工業大学　以下TNIと記載）から12人の学生と引率教員1人の総勢13人が3月8日から3月28日までの21日間本学に短期留学し、創造製作センターおよび情報システム学科で実習講座を体験した。

TNIはタイの産業を支える中堅技術者養成を目指して2007年6月にタイ・バンコクに設立された工業大学で、本学をモデルとして設備の充実を図ってきており、これからの発展が期待されている。

TNIは日本のものづくり文化に非常に高い関心を示しており、TNIにおけるものづくりの基盤を高めるために日本のものづくりの基本を体験させてはどうかとの本学の提案にTNIが応える形で今回の短期留学による実習体験講座が実現した。

創造製作センターでは溶融成型加工、接合加工、手仕上げ加工、CNC加工、MC加工技術を習得し、情報システム学科ではコンピュータ制御技術を体験した。

留学生たちは本学での実習体験以外に、トヨタ自動車工場見学、名古屋工業大学見学をし、その他実習時間外や休日等休みを利用して大須散策、名古屋城見学等の観光を楽しんだ。待望していた桜の花も見ることができ、大いに日本文化に触れた感激から、「もう1度日本に来たい」と言い残してセントレアを後にした。

（副学長 井上茂樹 記）

日本塑性加工学会賞功労賞を受賞

松居正夫 キャリアアドバイザー（キャリア支援室）

松居先生（元工学部機械工学科教授）の長年にわたる板材プレス成形に関する研究開発と学会活動への貢献が、社団法人日本塑性加工学会に認められ、5月28日（金）、日本塑性加工学会賞功労賞が授与された。

トコトン先生大活躍！

澤岡 昭 学長
中日新聞連載
「宇宙は手の届くところに」

国際宇宙ステーションの日本実験棟「きぼう」の利用計画に30年前から携わっている澤岡学長が、宇宙開発にかかわる夢のある話や星空に情熱を掲げた人たちのエピソードをつづる「宇宙は手の届くところに」が、昨年6月より中日新聞で連載されている。

4月に掲載されたミッション11「ママさん飛行士の話」では、4月に無事帰還したスペースシャトル「ディスカバリー号」乗組員の女性宇宙飛行士　山崎直子さんを紹介。宇宙飛行士でありながら一児の母親でもある苦労や、夫である大地さんを始めとする周りの人々の支えなど、表舞台からは見えない部分も伝えている。

「宇宙は手の届くところに」は、5月に掲載のミッション12で1年を迎えました。当初、連載は1年間の予定でしたが、好評のため今後もしばらく続くことになりました。

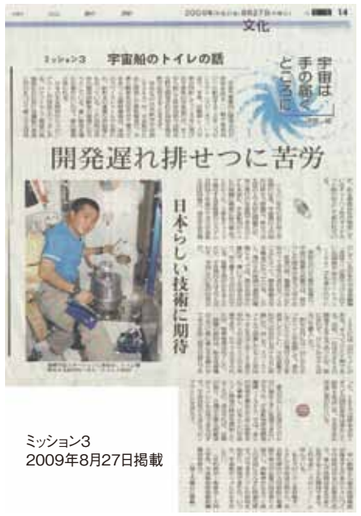
毎月第4木曜日に掲載されます。ぜひご覧ください。

文化
ミッション1 宇宙実験棟「きぼう」の話
宇宙は手の届くところに
インフル万能薬に挑戦
無重力が高品質結晶生む

ミッション1
2009年6月25日掲載

文化
ミッション2 アポロ月面着陸の話
宇宙は手の届くところに
光と影の偉業から40年
安全優先の技術開発を

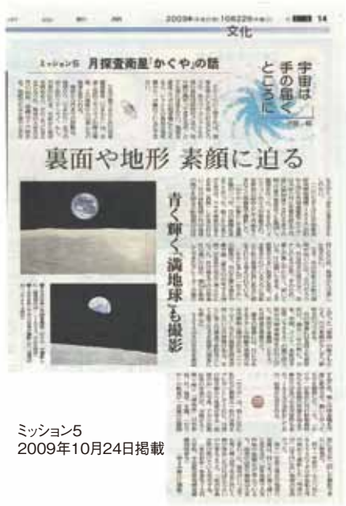
ミッション2
2009年7月23日掲載


文化
ミッション3 宇宙船のトイレの話
宇宙は手の届くところに
開発遅れ排せつに苦労
日本らしい技術に期待

ミッション3
2009年8月27日掲載

文化
ミッション4 宇宙食の話
宇宙は手の届くところに
好みのボーナス食持参
野口さん「すし握りたい」

ミッション4
2009年9月24日掲載


文化
ミッション5 月探査衛星「かぐや」の話
宇宙は手の届くところに
裏面や地形 素顔に迫る
青く輝く満地球も撮影

ミッション5
2009年10月24日掲載

文化
ミッション6 向井千秋さんの話
宇宙は手の届くところに
究極の予防医学に挑む
経験生かし地上にも応用

ミッション6
2009年11月26日掲載

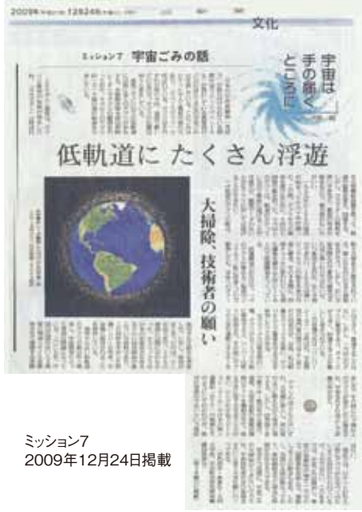
東海ラジオ「モーニングあいランド」最終回
CBC「ひるおび！」生出演

4月2日（金）、東海ラジオ「モーニングあいランド」の最終回に澤岡学長が生出演した。8年間続いた番組の最終回、今まで準レギュラーとして何度も出演してきた澤岡学長に、「ぜひ出演を！」とパーソナリティ小島一宏さんからの熱いお誘いもあって出演することとなった。

澤岡学長は、日本人女性としては2人目となる宇宙飛行士の山崎直子さんを乗せたスペースシャトル「ディスカバリー」が5日に打ち上げということで、ママさん宇宙飛行士への期待や、国際宇宙ステーション（ISS）に長期滞在中の野口聡一宇宙飛行士らが食べている宇宙食の話などを笑いも交えながら話した。また、5月に種子島から打ち上げ予定の金星探査機「あかつき」についても紹介。日本の得意とする“無人で遠くへ遠くへ飛ばす”技術と、外国が持っている技術とを合わせこれからもっともっと発展してほしい、と期待を込めた。

最後に、「澤岡さんはいつ頃宇宙へ行く予定ですか?」との質問に、「現在の最高齢宇宙飛行士は77歳のジョン・グレンさん。私はまだ71歳なので、今行っては世界一になれない。だから77歳ちょっと過ぎくらいに行く予定！」と学長の“夢”を答えた。

また、8日（木）には、TBS「ひるおび！」にもゲストとして生出演。国際宇宙ステーションでの山崎さんの役割や、現在の滞在している場所など模型を使って説明をした。


文化
ミッション7 宇宙ごみの話
宇宙は手の届くところに
低軌道に たくさん浮遊
大掃除、技術者の願い

ミッション7
2009年12月24日掲載

文化
ミッション8 危機管理の話
宇宙は手の届くところに
シャトル事故 14人が犠牲
現場の警告無視し強行

ミッション8
2010年1月28日掲載

文化
ミッション9 宇宙服の話
宇宙は手の届くところに
14層構造で気密や断熱
開発費含め1体10万

ミッション9
2010年2月25日掲載

文化
ミッション10 輸送船開発の話
宇宙は手の届くところに
国産、大きな賭けだった
ISSに無事ドッキング

ミッション10
2010年3月25日掲載

文化
ミッション11 ママさん飛行士の話
宇宙は手の届くところに
存在感示した山崎さん
ISSへの長期滞在期待

ミッション11
2010年4月22日掲載

文化
ミッション12 服装の話
宇宙は手の届くところに
パンプキンスーツは命綱
シャトル事故を機に開発

ミッション12
2010年5月27日掲載

トコトン先生 大活躍！

水野義雄 教授（教養部 保健体育教室／情報学部 情報デザイン学科 スポーツ情報専攻）

東海市長より感謝状

平成14年から8年間、東海市教育委員会で委員長を務めた水野教授に、多年にわたり東海市教育委員会委員として教育行政の発展に尽力し、その功績は多大であるとして、東海市長より感謝状が贈られた。

水野教授が委員長を務めた東海市教育委員会では、平成15年度から市内小中学校において、教師の資質向上と児童生徒の学力向上に向けた研究実践に取り組み、平成16年度には、市内全ての学校・校区が文部科学省の研究指定を受け、「授業改革に挑む」をメインテーマとした研究発表会を開催。その後、これまでの取り組みを総括し、ありのままを記録したいとの思いで、東海市教職員会を発行母体とする『授業改革に挑む』を出版。前向きに授業改革に挑戦しようとする教師の姿、学校の姿をありのままに記録した。

そして「授業改革に終わりはない」という方針のもと、「さらなる授業改革に挑む」をテーマに、平成18年度の中間発表、平成20年度の教育実践総合発表会へと引き継がれた。

今回の授与は、これらの取り組みによるもの。

6月14日（月）、東海市役所において授与式が行われた。

齊藤慎太郎 教授・佐藤壮一郎 准教授
（情報学部 情報デザイン学科 スポーツ情報専攻／教養部 保健体育教室）

世界学生ハンドボール選手権に 男女U-23日本代表チームの監督として出場

6月27日（日）から7月4日（日）まで、ハンガリー・ニーレジハーザで開催される世界学生ハンドボール選手権の男子代表チーム監督に佐藤准教授、女子代表チーム監督に齊藤教授が就任した。この大会には男子11ヶ国、女子7ヶ国が出場する。

また、本学の卒業生 森光勇太さん（2009年機械工学科卒業／豊田合成ハンドボールチーム所属）も代表選手として参加。活躍が期待されている。

西堀賢司 教授（工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻）

開発中の「有松・鳴海絞ロボ」中日新聞に掲載

4月6日（火）の中日新聞に、西堀教授らが開発中の“有松・鳴海絞り工程を手掛ける装置”の記事が掲載された。

職人不足や高齢化で技術継承が深刻な課題となっている「有松・鳴海絞」。西堀教授の研究グループは、熟練の技に代わり、自動で絞り工程を手掛けるロボットを開発した。

開発したのは、布をシリコン製キャップに押し込む装置。本来なら職人が下絵の模様に合わせて布を丹念にくくるが、その工程をロボットが行うことになる。熟練技による美しい模様を再現するため、押し込みの力や速度を調整。また、発光ダイオード（LED）で布を押し込むポイントを照らしたり、布の位置を固定する機能を設けたりと、作業の機能性も高めている。

しかしまだ試作段階でもあるこのロボット。「複数のキャップを同時に装着できるようにしたい」と今後の改良点を話す西堀教授は、既に特許申請は済ませ、2011年度の実用化を目指している。

2010年（平成22年）4月6日（火曜日）

大同大工学部の西堀賢司教授（52）の研究グループは、国の伝統工芸品に指定されている名古屋市の有松・鳴海絞の絞り工程を手掛ける装置を開発した。布を前で巻いてくくる熟練の技に代わり、円筒形の模様キャップをかぶせて絞る簡単な手法を自動化することに成功。既に特許申請を済ませ、2011年度の実用化を目指す。

大同大教授ら開発

有松・鳴海絞ロボの技

11年度の実用化目指す

有松・鳴海絞の絞り工程を自動化する装置と、同装置を開発した西堀教授＝名古屋市の大同大で

有松・鳴海絞は、不足や高齢化で技術継承が深刻な課題となっている。西堀教授らが開発した装置は、布を高さ約八センチの樽状に絞り上げる。職人が下絵の模様に合わせて布を丹念にくくるが、その工程をロボットが行う。

しかしまだ試作段階でもあるこのロボット。「複数のキャップを同時に装着できるようにしたい」と今後の改良点を話す西堀教授は、既に特許申請は済ませ、2011年度の実用化を目指している。

トコトン先生 大活躍！

稲熊幸雄 教授（工学部 電気電子工学科）

「社団法人 計測自動制御学会中部支部 功労賞」受賞

社団法人 計測自動制御学会（SICE）中部支部が主催する「平成21年度 中部支部 第40期支部賞」の功労賞に稲熊教授が選ばれた。

この賞は、社団法人計測自動制御学会（SICE）中部支部の設立40周年を記念して、中部支部に永年にわたり貢献した個人に対し、その功労を称え賞したもの。稲熊教授も、永年にわたり支部の発展に尽くし貢献したとして受賞の運びとなった。

佐藤達生 教授（工学部 建築学科）

サン・マールでの出会い

ゴシック建築の重要なある特質を歴史的に証明するため、2005年から毎年2～3週間ほど、フランス北部に散在する教会堂の特定部分を、実測調査しております。対象となる教会堂は140棟程度ですが、その多くは、これまで建築史の表面に浮上したことのないような小規模なものばかりです。それらの教会堂の規模の小ささは、教会堂の存在する町や村の規模の小ささにも表れています。幼稚園の2階に役場が間借りしているという村もありましたし、週に1日か2日、それも半日しか役場が開かないような村は普通で、人口500人に満たない村もめずらしくありません。どの町村（コミューンという）もそうですが、フランスのコミューンは、日本の町村と違い、あたかもテーブルの上に撒き散らされた胡麻粒のように、それぞれが小さくまとまって田園のなかに点在します。

そのような村の一つに、サン・マールという村があります。パリの北西150 km ほどの、周囲を麦畑に囲まれた小高い丘の上にある、人口121人という非常に小さな村です。私は教会堂の調査をスムースにおこなうため、事前に町村の役場に手紙を出し、調査の許可を得ることにしております。梨のつぶての役場もありますが（その場合にはパリ在住の文化財保護官を通じて連絡をとってもらいます）、なかには地元の歴史家を紹介してくれたり、文献資料を集めておいてくれたり、対応はおおむね好意的です。サン・マールの場合（2009年7月31日に調査）は、ミシュリーヌ・ルクーという村長さんが、私の訪問に大喜びで、フランス北西部をエリアにもつ新聞 l' Union（『リュニヨン』：発行部数10万部／日）の若いジャーナリストを呼んで、待ち構えておりました。

その結果が、8月3日付けの記事です。ソワッソンという大聖堂のある町を中心とする地方の欄に載ったものです。記事の見出しは、「教会堂の上に日が昇る！」。少々大げさな、恥ずかしくなるようなタイトルですが、記事の中で日本を「日の昇る国」とたとえていることから、このようなタイトルになったのだろうと想像します。写真の説明はこうです、「大学教授は、石工のように教会堂の円柱を計測した」。記事は、「大変遠い国から来てこの村の至宝のような教会堂に興味をもつスペシャリスト」との、「滅多にありそうもない出会い」に喜びを隠さない村長の言葉、などを中心にまとめられております。私にしてみれば多くの町や村の一つにすぎないのですが、村長さんにしてみれば、このような小さな村に日本人が仕事で来るなどというのは、一生に一度あるかないかのできごとで、大変な驚きだったのでしょう。大げさな見出しも、分かるような気がします。「・・・調査が終わり、お茶に招かれ楽しい時間を共にした後、日本の大学教授は、トヨタのレンタカーに乗ってソワッソンに戻っていった。・・・サン・マールの建築は、彼がフランスの旅路の最後に訪れた教会堂であった。帰国したら彼は、調査の成果をゴシック芸術の論文としてまとめることになっている。サン・マールでは早くも、そのフランス語訳を待っている」。と、記事は締めくくっています。

▲Saint-Mard

そそっかしい記者なのか、文中私の名前 Tatsuki をすべて Satsuki と誤記しているのがちょっと残念ですが、サン・マールでの人々との出会いは、昨年の調査の懐かしい思い出です。（調査の成果が論文にまとまるのは、かなり先のことになりそうですが。）　（佐藤達生 記）

Lundi 3 Août 2009

4 Soissons et le Soissonnais

Un universitaire japonais étudie l'architecture de Saint-Mard

Soleil levant sur l'église !

Satsuki Sato est professeur à l'université de Nagoya, au Japon. En France pour quelques jours, il s'est intéressé à Saint-Mard. Objet de sa curiosité : l'église du village.

SAINT-MARD, 121 âmes précisément, charmant village blotti dans le canton de Vauxrot.

On y accède par une petite départementale, la 22, annoncée et un brin vallonnée. C'est là, au milieu de nulle part ou presque, que l'improbable rencontre se produit. A l'initiative de Satsuki Sato, professeur d'architecture japonais visite, mesure les colonnes et prend des notes... Il enseigne à l'université de Nagoya, dans l'Empire du Soleil-Levant.

Le nom de famille brodouille par ce n'est d'emblée approximatif lorsqu'on l'a, en compensé rapidement que l'homme, affable et souriant, travaille sur l'architecture gothique.

« La plus belle »

Depuis 3 ans, il a multiplié les allers-retours entre le Japon et la France, à raison d'une à deux semaines par an, et a parcouru de son regard expert une centaine d'églises de la moitié Nord. Il a commencé par Saint-Mard sur la route de Soissons. Sans connaître, il a gardé le meilleur pour la fin : « C'est la plus belle, non ? », s'enquiert-il, alors que nous nous rendons Michelline Lequeux, le maire du village, « The number one, pour moi », répond l'universitaire diplomate.

« Je rêve »

Michelline Lequeux est conseillère dans son village où spécialiste reno de cottrées et bonnières et qui l'intéresse de ci près au jopes de sa commune : madame le maire ne bouge pas non plus. Pour rencontrer Satsuki Sato, elle a sollicité Antoine quelques instants, n'en aliant quère chez elle quelques photos de l'église détruite pendant la guerre.

« Quand j'ai vu la lettre à la mairie, le tendre japonais a tout de suite été le bienvenu. Il faut dire que c'est une demande d'ancienne, pour étudier l'église. Je suis ravie qu'il ait pu venir », s'exclame Aucune hésitation : Satsuki Sato était le bienvenu. Le maire lui a proposé de le loger. Il n'était pas venu à l'aéroport Charles-de-Gaulle, mais à la gare de Tergnier, la première adresse, et Christian Chatel, conseiller municipal.

Une heure plus tard, l'universitaire japonais était convié à prendre un café qu'il a partagé avec le maire et son mari, et s'entretenir avec Soisson à bord de sa voiture de location. Une Toyota.

Et a séjourné deux jours dans la cité du Vase, après douze jours à Paris.

Pourquoi Saint-Mard ?

L'église de Saint-Mard (contraction de Saint-Medard) date du XIIe siècle.

Ce sont les quatre piliers du clocher et de l'abside (partie qui termine le chœur d'une église), leurs colonnes et leurs sculptures remarquables (en « feu » forme et par le sculpteur de leurs chapiteaux qui est artiste « non-existant » japonais.

Il était pas venu à l'aéroport Charles-de-Gaulle, mais à la gare de Tergnier, la première adresse, et Christian Chatel, conseiller municipal.

Une heure plus tard, l'universitaire japonais était convié à prendre un café qu'il a partagé avec le maire et son mari, et s'entretenir avec Soisson à bord de sa voiture de location. Une Toyota.

Et a séjourné deux jours dans la cité du Vase, après douze jours à Paris.

De retour au Japon, Satsuki Sato synthétisera le fruit de ses recherches dans un ouvrage intitulé « Saint-Medard ».

A Saint-Mard, on en attend déjà la traduction en français.

Ludivine BLEUZÉ

鷲見哲也 准教授（工学部 都市環境デザイン学科）

「土木学会中部支部技術賞」受賞

5月10日（月）、土木学会中部支部総会で、鷲見准教授が土木学会中部支部技術賞の表彰を受けた。受賞対象は、平成21年度土木学会中部支部研究発表会での発表「2009年8月兵庫県佐用町豪雨災害に関する調査報告」。多くの被害を出したこの災害の2日後に現地入りし、現地調査したこと。また災害、特に豪雨時の避難に関する詳細な時間経過について検討したことなど、防災上に貢献する調査報告であると、高い評価を得た。

トコトン先生 大活躍！

澤岡　昭 学長
田中秀和 教授（情報学部 情報システム学科 コンピュータサイエンス専攻）

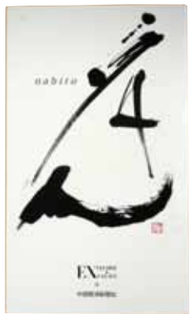
田中教授が幹事を務める「岐阜県技術士会 平成22年度 総会」で澤岡学長が特別講演

5月8日（土）、岐阜市生涯学習拠点「ハートフルスクエアーG」で、田中教授が幹事を務める「岐阜県技術士会 平成22年度 総会」が開かれた。総会は田中教授の挨拶から始まり、平成21年度の事業報告や平成22年度に向けた活動方針などが話し合われた。

その後行われた特別講演では、澤岡学長が登場。「日本の技術で日本人を宇宙へ！」と題し、今話題の宇宙の話を講演し、会場を盛り上げた。

渡部裕子 講師（情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻）

『名人-nabito-』創刊号に掲載される



6月11日（金）、中部経済新聞社が『名人-nabito- Vol.1』（2,100円）を創刊。

書家・アーティストとしても活躍している渡部先生が掲載された。

『名人』は、名古屋で活躍するさまざまな分野（デザイナー、タレント、職人、クリエイター、野球選手、研究者・・等）の方々の詳細な個人データや作品の紹介から、趣味などに毎月費やす金額まで紹介した書籍。

創刊号表紙の題字は渡部先生が揮毫した。

横山弥生 教授（情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻）

グループ展「HARMONY2」開催

出身大学である武蔵野美術大学のOGアーティスト達とN.Yのチェルシーにあるthe International Center in NewYorkで2月26日（金）から3月11日（木）まで展覧会を行いました。チェルシーはN.Yで最も斬新なギャラリー街で、世界中から最新の作品が集まります。

私は以前から作り溜めていた作品を14点出品しましたが、「DAILY SUN N.Y」、「週間NY生活」、「NYジャピオン」など地元の新聞に展覧会の情報が掲載されたため、初日から多くのギャラリーのオーナーが集まりました。

また、ニューヨーカーはアートにたいへん興味があるので、大雪の中を来場し、熱心に作品を見入っていました。やはり作品の見方が日本人とは異なり、海外での展覧会は良い刺激でした。来年はN.Yで個展をしたいと思っています。

（横山弥生 記）

光田 恵 教授（情報学部 情報デザイン学科 かおりデザイン専攻）

TOKYO FM「シナプス」に電話生出演

5月20日（木）、やまだひさしさんがメインパーソナリティを務めるTOKYO FM「シナプス」（月～木13:00－16:00放送）に光田教授が電話で生出演した。

身近なようで詳しいことはあまり知られていない“におい・かおり”についての特集コーナーに、日本の“におい・かおり”研究の第一人者である光田教授がフューチャーゲストとして招かれた。

“汗のにおい”が気になるこれからの季節、光田教授は、「“汗のにおい”と言われ、不快に感じる人も多いかもしれないが、本来、汗自体は無臭。身体の微生物の活動によって汗がにおいを発生するメカニズムです。汗のにおいが気になる人は、まずは身体を清潔に。制汗スプレーなどは、汗をかく前の清潔な状態で使うのが効果的！」とアドバイスをした。

また、アロマの心理的影響、各家庭におけるにおいの違いの話や、においの基準など今後の研究課題についても話した。

杉本幸雄 准教授
（情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻）

中映協映像コンテストで大賞受賞

5月14日（金）に開かれた、「第8回中映協映像コンテスト」で、杉本准教授が制作にかかわった発見！人間力『三河サムライの挑戦』（メ～テレ発テレビ朝日系全国ネット放送）が、番組部門の大賞に輝いた。

世界的な不況のなか、自動車産業が盛んな愛知県三河地方も一気に景気が悪化。こうしたなか三河地方にある岡崎市では地元の会社を中心に異業種が一体となった地域ブランド「サムライ日本プロジェクト」を結成。岡崎市は徳川家康生誕の地として栄え、八丁味噌、花火、和ろうそくといった伝統地場産業が残っている。「地域に埋もれた昔からある名産品を世に送り出し、地域を元気にしよう！」と三河地方の名産品を、三河らしくサムライを意識したデザインの「サムロック」というブランド商品へと新装し、全国へ発信。この番組は、前に進もうと奮闘する現代のサムライたちを追いかけたもの。

『三河サムライの挑戦』は11月18日（木）、千葉の幕張メッセ国際会議場で開かれる「全映協フォーラム2010」に出品され、各地域から選ばれた作品と合わせて上映。グランプリを狙う。

NEWS

工学部 都市環境デザイン学科

ちゅうぶの土木『Mugen』で紹介

ちゅうぶの土木『Mugen』Vol.13（発行:社団法人日本土木工業協会中部支部）の“キャンパス訪問”コーナーに、棚橋秀行研究室が紹介された。

汚染地盤の浄化を研究テーマに取り組んでいる棚橋研究室では、今後問題となるであろう、機械工場で用いられる機械油などによる汚染地盤を浄化する方法を開発中。日本ではまだ有効な技術は確立されていない分野だけに、期待も大きい。新しい方法を開発するには、観察力を養い、頭をフル回転させなければならない、と棚橋准教授。それが学生たちの仕事力を鍛えるトレーニングになっているそうだ。

また、棚橋研究室の鹿島健司くん（4年※）、清宮崇寛くん（4年※）、山田智之さん（修士1年※）ら3人のインタビューも掲載。この4月から建設会社に勤務している清宮くんは、「将来は、研究室で学んだ汚染された土壌の浄化にかかわる仕事がしたい」など将来の夢を話した。

※インタビュー当時の学年

HELLO CAMPUS キャンパス訪問

工学部 都市環境デザイン学科 棚橋秀行研究室

大同大学

都市環境デザイン学科は、昭和50年4月に建設工学科が設置されたことにはじまる。その後、昭和62年4月に建設工学科に土木工学専攻・建築学専攻の2専攻が置かれ、平成13年4月、土木工学専攻を母体として都市環境デザイン学科が設置された。

都市環境デザイン学科の「都市環境デザイン学プログラム」は、平成18年度に「土木および土木関連分野」の技術者教育プログラムとして、日本技術者教育認定機構*の審査を受け、認定を受けた（平成19年5月）。

都市環境デザイン学科は、平成22年度より2つのコースを設置する。都市環境デザインコースで学んだ卒業生は、さまざまな社会基盤施設を設計する際の問題点を解決する建設コンサルタントや環境コンサルタント、社会基盤施設の施工管理者として、都市資産マネジメントコースで学んだ卒業生は、自治体・金融機関・住宅メーカー・不動産会社・建設会社などで、“まちづくりのプロデューサー”として活躍できる。さらに、測量士や土地家屋調査士、不動産鑑定士などの資格に挑戦する道も開かれている。

*Japan Accreditation Board for Engineering Education（JABEE）

汚染地盤の浄化をテーマに非掘削による機械油の除去技術に取り組む。

大同大学（Daido University：DU）は、大同工業大学（Daido institute of technology：DIT）から平成21年（2009）4月に校名変更された新しい呼び名である。
本学は名古屋市南区にあり、昭和39年（1964）に設置された大学である。
平成21年10月1日現在の学生数は学部生が2,966名（工学部：2,054名、情報学部：912名）、大学院生は全学で81名である。学生の出身地は 愛知県が60%、岐阜・三重・静岡県で30%と、ほとんどが地元近県である。

棚橋研究室は、いわゆる「土質」の研究室ではあるが、特に、汚染地盤の浄化を研究テーマに取り組んでいる。多くの機械工場で用いられる機械油などによる汚染地盤が今後問題になると思われる。機械工場の我が国の事業所数から考えても、機械油汚染地盤の浄化需要は非常に大規模である。しかし、土に対する付着性・粘性が高く、揮発性に乏しい機械油を、非掘削で地盤内から除去する有効な技術は、現在までのところ確立されていない。本研究室ではこうした汚染を浄化する方法の開発に向けて日々実験を行っている。

実験とひとくちにいっても新しい浄化方法を開発するのであるから、「実験方法」「実験条件」といったものは実験の最中に随時変更になるため、観察力を養い常に頭をフル回転しないと本研究室では仕事にならない。これが学生の仕事力を鍛えるいいトレーニングになっている。こうしてこれまでに発明したユニークな浄化法の1つは2009年12月に特許を取得した。

YOUNG VIEW

土木の道を選んだ根本にはものづくりへの憧れがありました。
子どもの頃からプラモデルやジグソーパズルが大好きで、ものをつくることに憧れていました。土木を選んだ根本にはそんな気持ちがありました。就職も現場で仕事がしたいと考え建設会社を選びました。就職先は用川工業における矢板の施工を専門にしているところで、配属も決まっていて希望通り現場にいくことになっています。新しく導入された機械もあるそうで今から楽しみにしています。
鹿島健司さん 大学4年

将来は研究室で学んだことが生かせるような仕事がしたいですね。
もともとは文系志向だったのですが、センター試験の成績や家庭からの経済的な条件を考え、この大学にくることを決めました。この不況下にあって就職内定をいただけたことを考えると、この大学にきてよかったと今は思っています。4月からは建設会社で働くことになっています。将来は、研究室で学んだ汚染された土壌の浄化に関わる仕事ができたらうれしいですね。
清宮崇寛さん 大学4年

修士課程における1年の経験が自分を大きくさせてくれました。
実は私は大学を卒業して一旦就職したのですが、1年足らずで退社し、大学院に入り直しています。さらに修士課程の途中なのですが4月から公務員として働くことになりました。修士の1年は、4年生の頃卒業研究での発表など貴重な経験をさせていただき、大きなものを得ることができました。今回、公務員に採用されたのもそうした経験がいかされたのではないかと考えています。
山田智之さん 修士課程1年

新任教員紹介

神﨑隆男 教授 工学部 機械工学科

4月1日より機械工学科に着任しました神﨑です。3月まで千葉県我孫子市にある(財)電力中央研究所に勤務し、発電所の環境アセスメントなどで実施される大気拡散予測に関する研究を行っていました。専門分野は流体力学の中でも、大気中や海洋中での移動現象を対象とする環境流体力学です。大同大学では、おもに流体力学に関する講義を担当します。流体力学は、機械工学科で習う4大力学にも挙げられる重要な科目です。学生の皆さんが流体力学を通じて、技術者としての工学的センスを習得できることを目指して講義に取り組んでいます。また、学生時代のメリットである、時間があることを最大に利用して、学生の皆さんが"よく遊び、よく学び"を実践し、記憶に残る学生生活を過ごし、卒業研究や講義を通じて、これからの産業界を担う逞しい技術者として社会へ飛び出すまでのサポートに尽力したいと思います。

武藤 隆 准教授 工学部 建築学科

2010年4月より建築学科に着任いたしました武藤隆です。建築やインテリアデザインの視点から、美術館、ギャラリーなどの展示空間や、展覧会の会場構成、あちこちで行われているビエンナーレやトリエンナーレなど屋外や美術館外での展覧会などの研究をしています。また実際の空間の計画や設計も行い、今年、開催される「あいちトリエンナーレ2010」では、全体の会場構成などを担当します。建築やインテリアデザインと美術は、非常に近い存在でありながら、それらを結び付けられる人が少ないのが現状です。現代美術は壁面だけでなく、インスタレーションや映像、パフォーマンスなど様々な表現があり、旧態然とした空間では展示が難しくなってきています。それらを調査したり分析したりして、今までにどんな空間が使われてきたか、これからはどんな空間が必要になるかを、研究と計画とで検証し、建築やインテリアデザインと美術を結びつけたいと思っています。

中島貴光 講師 工学部 建築学科

はじめまして。4月に建築学科に着任しました中島貴光です。専門は建築設計で、本学科では主にインテリアデザイン専攻の授業を担当しております。

「インテリアデザイン」とは、相応しい日本語訳がないことからもわかるように、まだまだ専門領域として新しい分野です。狭い意味では室内装飾を指すこともありますが、無論それだけが専門性ではなく、もっと広く「人間のための空間」について考えることに意義があると思います。私自身、出自を藝術大学の建築科に持ち、舞台装置やインスタレーションなど、狭義での建築・インテリアに捕われない空間制作の活動を展開して来ました。また、本学がものづくりの伝統のある大学であり、産業の盛んな地域にキャンパスが位置することも無関係ではないと思います。

私の研究室では「実践」を標榜しております。地域・社会と連携しながら、これからの「人間のための空間」を学生の皆さんと共に実践的な活動を通して考えて行きたいと思います。

不破勝彦 准教授 情報学部 情報システム学科 コンピュータサイエンス専攻

本年度より情報システム学科に着任いたしました不破勝彦です。A棟8階に居ります。制御工学とりわけ外乱抑制制御に関して、理論から応用まで一貫して研究を行なっております。制御というと、聞き慣れない皆さんも多いかと思いますが、たとえば機械やロボットなどを自分の思い通りに動かすための方策なのです。でも、この「思い通りに動かす」は言うは容易いのですが、いざ行なってみようとするとこれが結構難しい場合が多いのです。その原因の一つに外乱の存在があります。外乱は、環境の変化や機器の劣化・経年変化など予期できないような特性をもつことがほとんどであり、一般には機器に悪影響を与えてしまいます。そこで、できるだけ外乱を取り除き、本来の制御ができる土台作りを行なうことがこの研究の目的であります。若い皆さんの豊かな想像力と鋭角的な分析力がなければこの研究は成就いたしません。一緒に制御をやりませんか。

柘植 覚 准教授 情報学部 情報システム学科 情報ネットワーク専攻

読者の皆様、(恐らく)はじめまして、本年度(2010年度)より情報学部情報システム学科に着任を致しました柘植覚です。A棟8階の研究室にて、まだまだ解らない事も多いながら、教育・研究に日々努力をしております。皆様に少しでも私を知って頂きたく、非常に簡単ではございますが自己紹介を書かせて頂きます。本年度より、生まれの地である愛知県名古屋市に四国の徳島から戻ってきました。研究分野は「音」特に「音声・音楽」を取り扱って研究を進めております。音声の分野では、音声認識、話者認識の研究を行い、音声によりコンピュータが操作できれば人とコンピュータの壁を少しでも取り除け、人に優しいコンピュータができるのではないかと思い研究を進めています。また、音楽の分野では、従来のタイトルや歌手名ではなく、気分などの感性による音楽検索を目指し研究を進めています。最後となってしまいましたが、卒業生の皆様にはますますのご活躍、未来の新入生の皆様には一緒に研究ができることを願っております。

新任教員紹介

並木浩一 教授 情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻

初めまして、並木浩一です。大同大学に着任するまでに編集者、プランナー、執筆者として20年超の活動歴があり、この3月まではダイヤモンド社編集委員の傍ら都内の専門職大学院で、広報論の講義を担当していました。雑誌編集長の経験が2誌、広告企画部長であったこともあり、実務と理論の両面から、広報・広告を含めたメディア論分野全般を守備範囲としています。現在は『文章技法』などの講義を担当しています。実務の経験がある私の役割は「メディア表現手段の習得」を導くことと心得ています。本学のメディアデザイン教育で実践したいのは「いつでも広告や出版などマスコミの現場で働き得る能力をもった学生」の育成です。そのために『メディアリテラシー』と呼ばれる「情報の読み書き」のスキルを育てる教育を日々心がけています。ひとりひとりの学生が最終的にどんな進路を選ぶにせよ、身についた技能と知識が役に立つ日が、いずれくるはずです。

杉本幸雄 准教授 情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻

映像の世界に興味を持ち始めたのは大学生の頃。カメラマンになりたいと思った。始まりはテレビ報道の世界からでした。ニュースの現場で飛び回っていた二十代。テレビの創世記を作り上げてきた先輩たちから多くのことを学びました。職人としての心構え、レンズを向けるときの気持ち、報道としての使命。報道カメラマンとしての経験が、今の自分の基礎を作ってくれました。

三十代、CMの世界へ。最初に撮ったCMはもう思い出せません。しかし、撮影現場で手が震えていたことは何故か良く覚えています。かなりの小心者です。

四十代、市井の人々の小さな挑戦に光を当てられないか、ドキュメンタリーを撮り始めた。名も知れぬ人々の物語を紡ぎあげる。人は触れ合って育ち、助け合って生きていることを実感した。

五十代、クリエイティブにゴールはない。改めてそう思う。そして映像作品の持つ力と楽しさを皆にも伝えたい。

横井健二 教授 情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻

大同大学にお世話になる前は、日立製作所にてプロダクトデザインや事業の企画、そしてブランドマネジメントの仕事に携わってきました。プロダクトデザインでは、電化製品、情報機器、そして鉄道車両などのデザインを担当し、事業企画ではネットを活用した新サービスの企画をおこない、ブランドマネジメントでは戦略立案と実行に関わってきました。これらの仕事はいずれも創造力が成果を大きく左右するもので、創造力が十分に発揮できれば独創性や質の高い成果を生み出すことができましたし、反対であればひどい結果を招いてしまいました。

創造力は天性のものだと捉えられがちです。しかし、私は学習や訓練で必ず伸ばすことができるチカラだと思っています。

次代を担う学生にこの創造力の面白さや楽しさを実感してもらうとともに、学習、訓練を通じてそのチカラを高めてもらい、このチカラを駆使しデザインの醍醐味を実感してもらえればと思っています。

竹村明久 講師 情報学部 情報デザイン学科 かおりデザイン専攻

春から大同大学に赴任しました、竹村です。かおりデザイン専攻も私と同じく、今年度設置された新しい専攻ですので、新鮮な気持ちで取組んでいます。私が専門に扱うのは、主に人とにおいとの関係、すなわち人のにおいに対する心理・生理反応です。においは、未だ人が感じる強さや良し悪しを機器で判断するのが困難な分野で、そのため、人が直接においを判断して、よい香りを作ったり悪いにおいを抑えたりすることがほとんど。一方で、人は鼻だけではなく、目・耳・舌・肌など多くの感覚器官を同時に働かせて過ごしているので、においのみならず、人を取り巻くいろいろな環境やもの(場合によっては心理的な錯覚まで)がにおいの感じ方に及ぼす影響も知らねばなりません。「においの不思議」は「人の不思議」。学生の皆さんにも、家の中、買い物先、旅行先などで、身近な問題意識を感じて、この「不思議」に対して関心や疑問を持ってもらえるように、工夫していきたいと考え、取組んでいます。

久田晴生 教授 教養部 教職教室

36年ぶりの「浦島太郎」

私はこの3月まで京都の高校で理科を教えていました。もともと名古屋生まれで、36年ぶりの帰郷になります。もちろん、その間たびたび帰省はしていたのですが、いざ腰を落ち着かせるとなると、あらためて「浦島」度を感じるところがあります。

その一つが家の周囲から田んぼがなくなったことです。出身小学校の校歌に「青田の向こうの青い山」という一節があるほどでした。この田んぼとその周りで、夏はザリガニやフナ釣り、秋は下校時に干しワラで基地ごっこ、冬は霜柱を踏み踏み登校…、今考えると、そういったことが私の理科教育の原点になっていたような気がします。

名古屋を離れている間、私は多くの「宝」を高校生たちからもらいました。この宝箱の中身は決して煙ではありません、光り輝く宝石です。今、このふたを少しずつ開けながら教壇に立っているところです。